

教育目標	水産・海洋に関する基礎的な知識・技術を習得させるとともに、持続可能な視点を持って水産や海洋の将来の利活用を捉え、関連する産業の発展と地域社会に貢献できる、心豊かなたくましい人間を育成する。
------	--

重点目標	(1)主体的な学習態度の育成と基礎学力を向上 (2)挨拶、時間、身だしなみ等マナーの向上 (3)進路目標を高く持ち、主体的に進路選択できる力の育成 (4)教育DXの推進による、海を活かす・守る・興す人材育成に向けた学習活動の研究 (5)地域と連携し学科の特色を活かした水産・海洋教育の充実
------	--

達成度	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

自己評価					学校関係者評価		総括
番号	重点目標	具体的方策と指標・基準等	目標の達成状況、達成に向けた取組み状況と分析	達成度	成果と課題 次年度に向けた改善策	意見・要望・評価等	
1)	主体的な学習態度の育成と、基礎学力を向上	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒への対応と「わかる授業」を目指した授業改善の推進 生徒の実態に即した観点別学習状況の評価方法の確立 一人一台端末を活用し、生徒の学びの理解促進につながる工夫を行う。 探究的な学習について研修し、課題研究や地域学習・発表会のレベルをより高いものにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月に「生徒の授業評価」を実施し、各教科で必要に応じた指導改善を行った。 指導と評価の一体化について、研修会の開催等、さらなる校内研修が必要である。 県教委主催のオンラインセミナーを活用し、効果的なICTやAI活用について研修した。 課題研究、地域学習において、共に主体的な活動を展開することができ、外部からも高い評価を得ることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程や学校設定科目等について課題や改善点を検証し、新教育課程の編成について検討を行っていかねばならない。 ルーブリックを用いた評価等、引き続き、指導と評価の一体化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育診断の結果より学習環境の整備、下位層に対する指導の工夫が必要と思われる。 基礎学力の徹底した底上げと、確かな伸長を図ってほしい。 	遠隔授業による習熟度別展開が上位者対策につながっている。下位者については、個別対応も含めた授業改善に取り組んでいかねばならない。また、ICTの積極的かつ効果的活用により、幅広い学力層に対応していきたい。
2)	挨拶、時間、身だしなみ等マナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な服装・頭髪検査 強化週間等の設定 毎日の清掃活動の徹底 ユニバーサルデザインの視点の入った整理整頓 教職員が共通理解を持って全員で指導にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな乱れは見られないが、形式的な遵守に留まらず、社会の一員として規律を守ることの意義や重要性を再認識させ、自律的な生活態度の定着を図る必要がある。 特定の生徒について、遅刻が多い。学年を中心とした声かけ等を行った。 クラスによっては、整理整頓がなされておらず、学習環境の整備という点で不十分であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> マナーアップ運動(朝の立哨指導)など、PTAの協力も得ながら行うことができた。 身だしなみやマナーについては、生徒が日常のルールの遵守を通じて、TPO(時・所・場合)を判断し自らを律する「主体的な生活習慣」を確立できるように全職員共通理解のもと指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の挨拶は年々良くなってきている。 自転車のマナーについて、事故等ないように、より一層安全運転を心がけてほしい。 	朝のマナーアップ運動については、今後も保護者の皆様の協力を得ながら継続していく。あわせて、基本的な生活習慣の確立やマナーの向上に向け、日々の積極的な声かけにも取り組んでいく。
3)	進路目標を高く持ち、主体的に進路選択できる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 水産・海洋関連のガイダンスや講演会を実施し、専門分野への理解を深める。これにより、生徒が自身の適性を見極め、高い志を持って納得感のある進路選択ができるよう支援する。 水産・海洋関連企業よりの求人依頼を参考に、各類型と連携しながら進路開拓を行う。 進路希望調査をふまえて、地元および県外の企業との適合性を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種ガイダンスや「山形のスペシャリストに聞くトップセミナー」等、多彩な機会を活用したキャリア教育を行うことができた。 求人票の収集や生徒への公開の際に、クラウドサービスを活用することにより、一覧化や閲覧性、視認性の向上につながった。また、進路情報の発信にデジタルサイネージを導入するなど、ICTの効果的活用により、キャリア教育を推進することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 企業訪問や他の効果的な進路開拓方法を確立する必要がある。特に県内漁業関連の求人の開拓が必要である。 人手不足で売り手市場の時こそ丁寧な進路対応・進路指導を実施し、学校としての信頼を高める必要がある。 上位者対策に特化した講習や個別面談の実施について検討していかねばならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な進路目標の設定に向け、1年次からの進路活動スケジュールを可視化し、計画的な指導を展開していくことが重要である。 地元定着率を向上させるための手立てが必要と思われる。 	キャリアパスポートを活用しながら、1年次からの進路ロードマップ等の作成を計画的に指導していく。その中で、地域連携や職場体験を通じ地元定着を促していきたい。
4)	教育DXの推進による、海を活かす・守る・興す人材育成に向けた学習活動の研究	<ul style="list-style-type: none"> 教科内実習や課題研究を活用し、生徒が主体的に取り組める場を設定し探究型学習につなげる。 関連企業や自治体との連携を深め、地域に貢献できる人材を育成する。 あらゆる状況下でも効果的な乗船実習ができるよう安全航海、感染予防と実習の両立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業や自治体と連携しながら、新たな販売品の企画や試食会などを実践することができた。また、課題研究における連携を通し、共同研究を実践することができた。 課題研究では水産・海洋に関わる多くの取組みを実践し、部活動、同好会活動も含めてポスター発表形式で充実した発表会が実施できた。 小学生や中学生対象の学校見学、体験活動を実施し、本校の魅力をPRすることができた。 スターリンクを活用し、実習船と教室を繋ぎ、協働学習を行うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 水産・海洋産業の発展に寄与する人材育成を目指し、産業界や自治体との連携、協働による魅力化・特色化に向けた新たな取組み機会の創出や充実を図る。 入学志願者増に向けた効果的な情報発信等を行う。 より効果的な航海実習を実践するため、時宜に合った航海の立案が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 近年の学習や探究活動の成果には著しいものがあり、今後もさらなる教育活動の充実と発展を期待する。 中学生、保護者に対するより効果的な学校PRについて検討してほしい。 	学校PRについては、メディア活用やSNSでの発信は効果的であるが、対面で伝えることも重要である。ストーリーに学校の魅力を伝えるという点において今後、工夫を重ねていきたいと考える。
5)	地域と連携し、学科の特性を活かした水産・海洋教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域に根ざした海洋教育を実践するため、授業や課題研究を通じて地域学習や課題解決型の研究に取り組む。 産業教育連携協議会委員と協働し、その事業計画を円滑に進めることで、水産・海洋教育の充実をはかる。 各学科、系列で学んだ学習内容を深める資格を取得させ、課題研究などで応用力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 加茂自治会や地域の歴史研究者と連携し、1年生がまち歩きを通じ、地域に関する理解を深めることができた。外国人との文化交流も実施することができた。 産業教育連携協議会の事業目的に沿って共同研究の実施や本校の魅力発信等の諸活動を実施することができた。 各系列による専門性を生かしながら、関連企業・団体等の協力のもと、施設見学や実習を行うことができた。 海技士、小型船舶ほか、各種資格取得に向けてガイダンスや学習会を実施することができた。 年2回の山形県海洋教育研究会を開催し、小中高連携を深めるとともに、現在の海洋環境をとりまく問題について知見を広げることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な地域社会の実現を目指し、そのニーズを踏まえた教育課程の開発を検討していかねばならない。 海技士の筆記試験に係る指導体制を強化することができたが、今後も受験者の増加と合格率の向上に向け取り組む必要がある。 養殖コンソーシアムへの参画等を通し、庄内地域の漁業の発展に貢献する担い手の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会との連携を一層深化させ、学校と地域が一体となった教育環境の構築に努めてほしい。 	産業教育連携協議会をはじめとし、今後も地域や水産・海洋関連企業・団体との連携をより一層深め、産官学が一体となった教育活動を推進していくことが重要である。

自己評価及び学校関係者評価の改善点、他	学校関係者評価における意見交換の活性化に向け、メール等による積極的な情報発信を行った。日頃の教育活動の周知徹底を図り、より建設的な評価・提言が得られる体制を構築することができた。
---------------------	---